

2016.10.27
vol.52

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

マダム・イン・ニューヨーク

10月27日(木)
① 10:30 ~ 12:45
② 14:00 ~ 16:15

貴女は家族から「どうせお母さんに言ってもわからないから」とか、「君には無理だよ」と言われ、さみしい思いをしたことはありませんか。この映画の中では、控えめで夫と子供のために人生を捧げてきたインド人主婦シャシが、異国の地ニューヨークで勇気を出して一歩前に踏み出し、様々な事情を抱えた人と触れ合う中で、誇りと自信を取り戻し、成長していく様子が瑞々しく感動的に広がっていきます。

主人公を演じたインドの大女優シュリデヴィは結婚・休業後、本作が15年ぶりの復帰作です。48歳(当時)とは思えぬ美貌、可憐な仕草、美しいサリーにも目が奪われます。

女性の活躍と男女共同参画を推進する、男女共同参画課お奨めの作品です。さあ、貴女も主人公と一緒に、一歩前に踏み出してみませんか。

原題：ENGLISH VINGLISH

監督・脚本：ガウリ・シンデー

出演：シュリデヴィ、アディル・フセイン

製作：2012年 インド

上映時間：134分



サロン・ド・シネマ

ホールホワイエにて

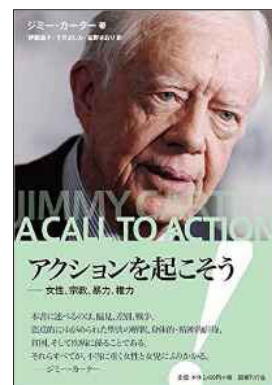
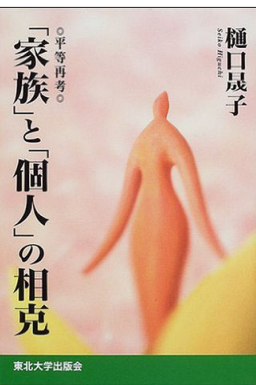
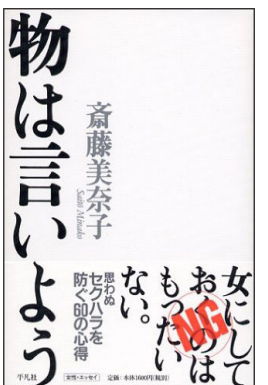
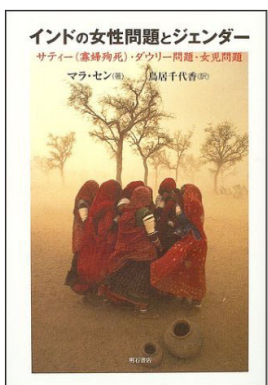
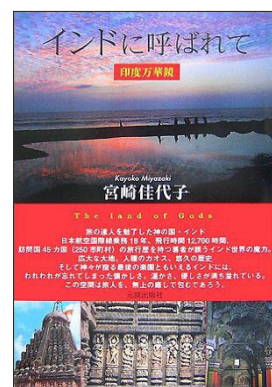
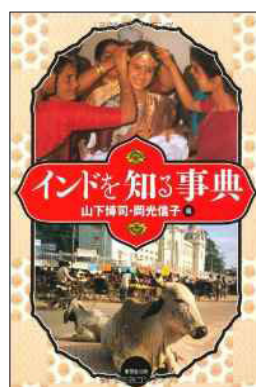
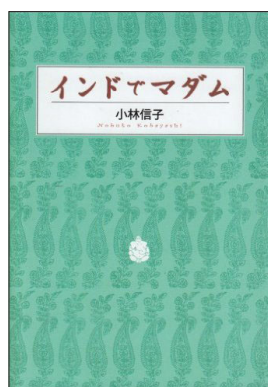
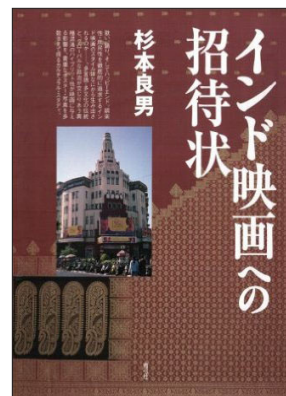
寄付金でお茶菓子を提供します。
映画の上映前にご利用ください。

午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。

映画を読む

『マダム・イン・ニューヨーク』

『インド映画完全ガイド』 マサラムービーから新感覚インド映画へ	松岡 環／監修・編	世界文化社	778.2
『インド映画への招待状』	田中 雄二／著	近代映画社	778.0
『インド映画にゾッコン』 Masala hits star magazine	野火 杏子／著	出帆新社	778.2
『インド待ち』	周防 正行／著	集英社	778.2
『インドでマダム』	小林 信子／著	文藝春秋企画出版部	292.5
『インドを知る事典』	山下 博司／著	東京堂出版	292.5
『インドに呼ばれて』 印度万華鏡	宮崎 佳代子／著	元就出版社	292.5
『ヒンドゥー教』 インドという<謎>	山下 博司／著	講談社	168
『インドの女性問題とジェンダー』 サティ（寡婦殉死）・ダウリー問題・女兒問題	マラ・セン／著	明石書店	367.2
『物は言いよう』	斎藤 美奈子／著	平凡社	367.1
『「家族」と「個人」の相克』 平等再考	樋口 晟子／著	東北大学出版会	367.1
『アクションを起こそう』 女性、宗教、暴力、権力	ジミー・カーター／著	国書刊行会	367.1



インド映画、初めて上映！ LSC：戸松

今回、男女共同参画課との共催ということで、図書館には所蔵されていないソフトからの選出となりました。毎回「コラム・ド・シネマ」を作成するに当たり、インド映画関連の書籍もあるのに、なかなか紹介できる機会がないと思っていましたので、とてもラッキーです。しかも、私は、日本に記録的なインド映画ブームをもたらした『ムトゥ踊るマハラジャ』(1995)以来のインド映画ファンなのです。

インド映画の歌ありダンスありの夢物語は、日常の現実を忘れるためと言われていますが、最近の映画では、歌も踊りもないシリアスな作品も増えています。また、『スラムドッグ\$ミリオネア』(2008)以来、ハリウッド製のインドを舞台にした映画も増えています。

現実のインドは、カースト制や宗教間の争いなど、男女共同参画やダイバーシティ（多様性）を進める文化とは、かなり差異があります。そんな中で、ハリウッドに負けていない映画文化に接することは、本と同じく、人生を豊かにしてくれていると実感しています。

お知らせ

「りぶらまつり 2016」映画上映会

11月12日（土）

15:00～16:30 りぶらホール

「禁じられた遊び」

原題：JEUX INTERDITS FORBIDDEN GAMES

監督：ルネ・クレマン

音楽：ナルシソ・イエペス

出演：ブリジット・フォッセー

ジョルジュ・プージュリイ

製作国：フランス

上映時間：87分

内容：1940年6月、機銃掃射で両親を失い、さまよっていた5歳の少女ポーレットは、少年ミシェルと出会い彼の家に連れていってもらう。ミシェルから死んだ子犬の墓を作る事を教わったポーレットは、ミシェルといっしょに次々とお墓造りをしていった……。ナルシソ・イエペスの切々と鳴り渡るギターのメロディが、心に残ります。

前回上映『スプレンドール』の感想

- ・『ニュー・シネマ・パラダイス』も見ましたが、この作品も楽しかったです。
- ・おもしろく拝見させていただき、ありがとうございました。
- ・映画好きの作品ですね。『素晴らしき哉、人生！』期待しています。
- ・わが岡崎市も、一時的に映画館がなくなった時期がありました。その時のことを思い出しました。「映画」はなくなる！ ですよ！
- ・時の流れの寂しさをひしひしと感じました。
- ・内容のあるいい映画でした。
- ・しみじみと楽しかった（よかった）です。
- ・いつも観に来ています。長いような短いような特別な時間です。多くの人に知ってもらいたい。
- ・今日もいい“時”が持てました。明日からも頑張るぞー！いつもありがとうございます。
- ・マストロのタバコを吸う手が好きだった。シーンは多くなかったけど、魅力的でした。
- ・『イル・ポストイーノ』の俳優さん（マッシモ・トロイージ）は素敵な役でした。また、このような機会をよろしくお願いします。ありがとう！
- ・イタリア映画の終わり方ですね。ラストは各自の想像にゆだねられていました。懐かしい俳優のカットがちりばめられていてノスタルジックでした。
- ・大変よかったです。

上映予定日

第56回 4月20日（木）

第57回 5月25日（木）

第58回 6月22日（木）

第59回 8月24日（木）

第60回 9月21日（木）

第61回 10月19日（木）

以下未定

上映作品は、現在検討中です。図書館に所蔵されているDVDで、無料で上映できる作品は限られていますが、皆様の賛助で、レンタルを利用することができ、上映作品の幅が広がっています（一般家庭で利用するレンタルではありません）。図書館の所蔵作品もレンタル作品も限られてはいますが、色々な作品を楽しんでいただけるよう、検討しています。

次回上映会のご案内

「シネマ・ド・りぶら」映画上映会（第53回）

素晴らしき哉、人生！

It's a Wonderful Life



観る者を明日の希望へと導くフランク・キャプラ監督ならではの珠玉の人生ドラマ。

第4回ゴールデングローブ賞監督賞受賞

AFI“元気になるアメリカ映画ベスト100”第1位

監督・製作：フランク・キャプラ

原作：フィリップ・ヴァン・ドレン・スターン

音楽：ディミトリ・ティオムキン

撮影：ジョセフ・ウォーカー他

出演：ジェームズ・スチュワート／ドナ・リード／ライオネル・バリモア／ヘンリー・トラヴァース

製作：1946年米国 モノクロ

上映時間：130分

日本公開：1954年

『素晴らしき哉、人生！』テーマ展示

◆12月8日（木）～12月20日（火）

◆場所：ポピュラーライブラリー

★日時 **12月15日（木）**

① **10:30～12:40** 開場：10:00

② **14:00～16:10** 開場：13:30

★場所 **りぶらホール**

★定員 **各回280人**（入場無料・全席自由）

★主催 **岡崎市立中央図書館
りぶらサポータークラブ**

★問合せ **TEL：23-3114 mail：info@libra-sc.jp**

託児：500円
（各回5名まで）
申込みは、
1週間前までに。

